

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

伊達政宗生前の肖像

仙台市博物館 学芸企画室 明石 治郎

第12回

作品と作者

左に掲げた作品は「伊達政宗甲冑像」と呼ばれるものです。

画の作者は狩野探幽（一六〇二～一六七四）。江戸時代初期を代表する画家で、幕府の御用絵師でした。

短冊は、伊達政宗（一五六七～一六三六）自作の和歌。自筆です。

和歌

「むさし野の月」と題するこの和歌は、宮廷文化界のリーダーの一人であった近衛信尋に賞された政宗自慢の一首です。「出るより入山端はいつくぞと月にと

はまし 武蔵の原」。空に照る月。

その月が入るべき山影も見えない広々とした武蔵野の原。当時の人には実際の風景が目に浮かんだかもし



伊達政宗甲冑像 仙台市博物館蔵

政宗の晩年、寛永七年（一六三〇）八月の作です。

甲冑像

和歌と無関係ではないと考えれば、甲冑像が描かれている円は月ではないでしょう。兜の前立は弦月形、広く知られている金色ではなく黒色ですが、政宗は大坂夏の陣で黒色を用いたことが記録されています。赤日の丸の旗指物は伊達家の意匠と同様です。

しかしながら、兜や鎧は古風な形のように見えますし、大きな鼻の天狗頬の面具も伝来の具足とは異なっています。この肖像が描かれたのは、捺された朱

席画？

軽やかな筆致で描かれ、見様によっては幻想的なこの騎馬の甲冑像は席画なのかもしれません。席画は宴席などで注文によって即席に描かれた絵のことです。

政宗の求めに応じて即興的に描かれた肖像。甲冑を着けた勇姿は隻眼に触れる必要ありません。

この作品の制作過程がわかりませんか、まったくの想像なのですが、いかがでしょうか。

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース（二次元コード）」からご覧いただけます。



印から寛永一二二年以前、つまり翌一三年に没する政宗生前のことと考えられるのですが、具足の形から推量すると必ずしも写実性を大事にしてはいないように思えます。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

詳しくはホームページをご覧ください。



〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
【観覧料】一般1,200円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
【開館時間】9:00～16:45（入館は16:15まで）
【休館日】毎週月曜日（7/21、8/11は開館）、7/22（火）、8/12（火）
TEL:022-225-3074 博物館X（旧ツイッター）:@sendai_shihaku

令和7年

7月4日（金）

8月24日（日）

仙台市・宇和島市
歴史姉妹都市提携50周年記念特別展

伊達を継ぐもの
仙台藩を築立った殿様たち



資料／宇和島市指定文化財 伏見御殿屏風（花鳥図）（部分）吉岡由呂氏撮影、校額紺糸威二枚胴置定 伊達宗資所用（以上、公財）
宇和島伊達文化保存会蔵、竹に巻三引而紋牡丹唐草時絵女乗物
伊達村寿正廟姫所用（東京皇土美術館蔵）